

環境経営レポート



2023年度

(対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日)



OnyAMA 株式会社 大山建設



エコアクション21
認証番号0000740

発行責任者 青木 佳史

発行日 2024年4月5日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	2
組織の概要	3
認証・登録の対象組織・活動	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組	5
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	8
緊急事態対応の試行・訓練	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	9
これまでの環境活動の紹介	9

代表者あいさつ

地球環境は、温暖化が徐々に進んでいる状況が報道されており、実際に世界各地で大規模な災害が発生しています。国内でも地震・集中豪雨や竜巻など過去に経験のない災害と被害がでています。また、特にアジア地域は発展途上国で、生産環境条件の有利さから活発に生産活動が続き、また、環境技術と政策実施の遅れで、国境を越えての大気汚染(PM2.5等)が問題となっています。温暖化の進行を食い止めるための、技術革新と化石燃料使用節減の推進が欠かせません。当社は、環境を破壊する業種、といわれている建設業を生業としていますが、社会資本の整備に関連する企業活動の中で、資源を大切に、環境を守る取り組みを推進し、地域に貢献したいと願っております。

株式会社 大山建設

環境経営方針

＜経営方針＞

株式会社大山建設は、人と地域と自然を確かな技術と柔軟な発想力で快適に結ぶ、21世紀のインタラクティブカンパニーを目指す。

＜行動方針＞

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や大規模災害、今後予想される資源の枯渇に対し、人類共通の重要課題との認識をして、土木・建築を主体に総合工事業を営み事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に環境保全活動を取り組み継続的な改善を行います。

＜行動計画＞

1. 具体的に次のことに取り組みます。
 - ① 電力・自動車・建設機械燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ② 建設資材の省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)の推進
 - ③ 水資源の節水
 - ④ 有害物質の低減
 - ⑤ コピー用紙の削減
 - ⑥ 環境に配慮した工法の推進
 - ⑦ 地域環境保全活動の推進
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 全職員に環境方針を周知して環境意識の向上を図ります。

制定 2005年9月1日
改訂 2021年7月1日

代表取締役社長
大山 祐司
専務取締役
大山 洋史

□組織の概要

更新日：2024年3月31日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 大山建設
代表取締役 大山祐司
- (2) 所在地
本社 〒520-1212 滋賀県高島市安曇川町西万木504番地1
湖南支店 〒520-3047 滋賀県栗東市手原五丁目6番19号
資材倉庫 〒520-1212 滋賀県高島市安曇川町西万木254番地1
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者：専務取締役 大山洋史
連絡担当者：総務部 青木佳史
連絡先：TEL：0740-32-1221 FAX：0740-32-2995
- (4) 事業活動の内容
滋賀県知事許可：特-4 第080741号
- (5) 事業の規模
・売上高 1412 百万円（2023年度）
・従業員数 39 人（2023年4月1日現在）

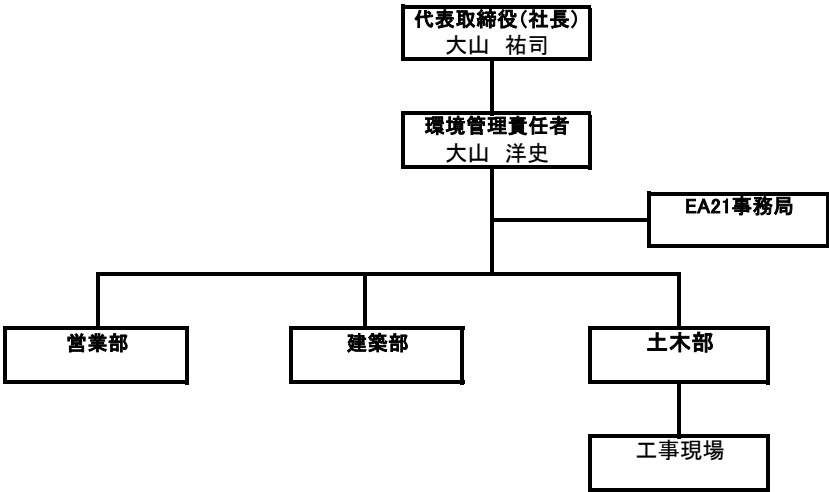
(6) 事業組織

	面積：㎡
敷地面積	3001
事務所床面積	696
資機材置場面積	890
倉庫床面積	201
駐車場面積	853
従業員(人)	39人

従業員数は毎年度4月1日現在の従業員数です

□認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名：株式会社 大山建設
- 対象事業所：本社、湖南支店、資材倉庫
- 活動：土木工事、建築工事、舗装工事



	役割・責任・権限
代表取締役(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境関連の内部コミュニケーションの運営管理 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付) ・環境活動実績の確認・全体評価
各部門長 工事現場代理人 現場責任者	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告(負荷報告) ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	104,517	197,294	226,449
産業廃棄物排出量	t	1,219.33	4,974	4,475.84
水使用量	m ³	-	-	-

※2021～2023年度の二酸化炭素排出係数： 0.351 kg-CO₂/kWh （関西電力の2020年度の調整後係数）
※化学物質の取扱いはありません。
※当社は毎年4月1日から翌年3月31日までが事業活動期間です。
※水使用量は同一敷地に同居の親会社が一括処理している。

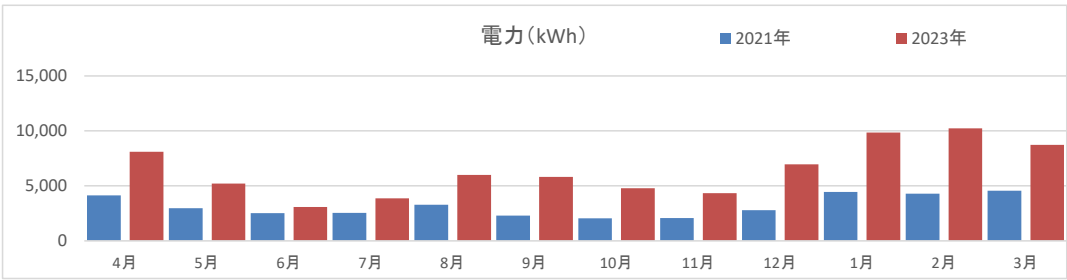
□環境経営目標及びその実績

年 度		2021年度	2023年度		評価	2024年度	2025年度
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電気使用量削減	kg-CO ₂	13,324	13,190	27,011	×	13,057	12,924
	kWh	37,959	37,579	76,953	×	37,200	36,820
	基準年度比	100%	99%	203%		98%	97%
	原単位 kWh/千円	0.041	0.041	0.055	×	0.040	0.040
燃料削減（自動車・建設機械）	kg-CO ₂	54,788	54,240	61,703	×	53,692	53,144
	ガソリン（L）	23,615	23,379	26,596	×	23,143	22,907
	基準年度比	100%	99%	113%		98%	97%
	原単位 kg-CO ₂	35,395	35,041	136,831	×	34,687	34,333
灯油使用量削減	軽油（L）	13,719	13,582	53,035	×	13,445	13,307
	基準年度比	100%	99%	387%		98%	97%
	原単位 L/千円	0.026	0.025	0.019	○	0.025	0.025
	kg-CO ₂	1,011	1,001	907	○	991	981
上記二酸化炭素排出量合計	灯油（L）	406	402	364	○	398	394
	基準年度比	100%	99%	90%		98%	97%
	kg-CO ₂	69,122	68,431	226,451	×	67,740	67,049
	基準年度比	100%	99%	328%		98.0%	97%
産業廃棄物のリサイクル率向上	%	100%	80%	100%	○	80%	80%
	基準年度比	100%	100%	100%		100%	100%
事務所利用水の削減	m ³	本社の水使用量は親会社であるオオヤマホールディングスのに同居しており同社が一括処理しており自社分の把握は困難で目標は設定せずに削減に努力する。					
	基準年度比						
環境に配慮した施工（全工事）		行動目標（次項による）					

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組

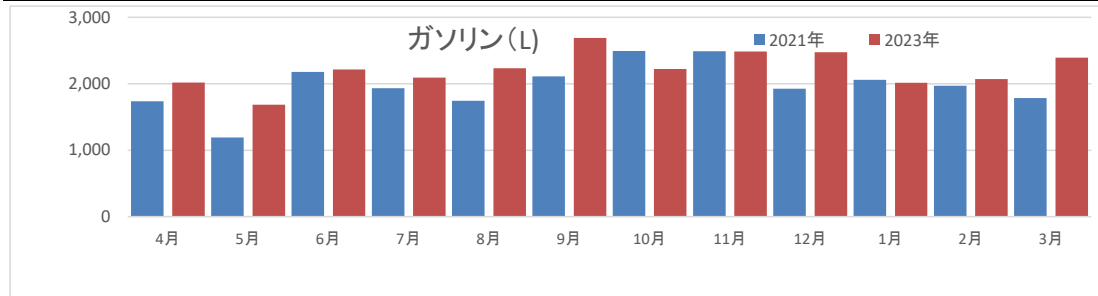
数値目標：○達成 ×未達成
活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電気使用量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	今年の排出量に関しては、各々が順調に目標数値より下回り、暖冬であったこともあり冬季も目標数値より上回ることにはなかった。ただ土地柄上、その年によって変動があるため、各人への周知は徹底し、引き続きCO ₂ 削減に取り組んでいきたい。
・冷暖房機設定温度の厳守（暖房温度20℃、冷房温度28℃）	○	
・エアコンフィルターの清掃	○	
・全フロアで昼休みの消灯	○	
・現場の電気使用機械の工事使用時以外のス	○	

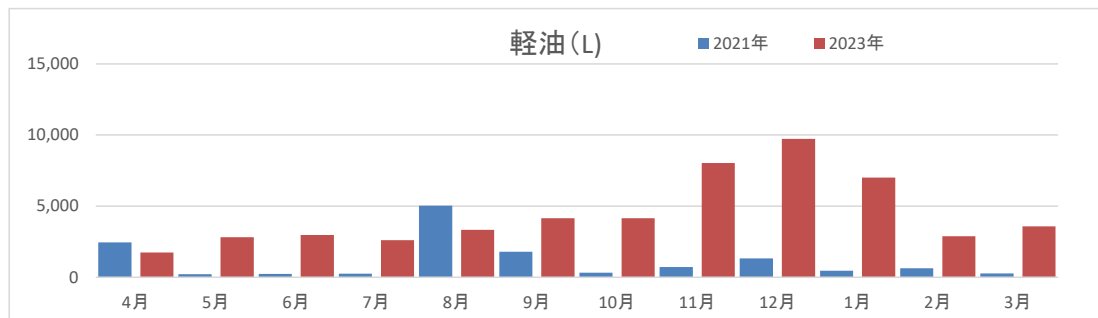


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	4,127	2,974	2,529	2,544	3,290	2,293	2,061	2,064	2,787	4,444	4,282	4,564
2023年	8,098	5,207	3,072	3,875	6,002	5,807	4,784	4,333	6,958	9,859	10,229	8,729

燃料削減(自動車・建設機械)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	一年間を通じ多数の月において目標数値を大きく上回る結果となる。工事の受注件数や工事場所などから使用する燃料は比例するものの、車両運転の際のエコドライブの励行、急発進急ブレーキの抑制、車両のメンテナンスなど周知を図り、少しでも目標値に近づけるよう心掛けている。ここ数年、社員の数も増加傾向にあり、若手社員向けへの指導を強化しつつ、車両の増台も数値に大きく影響をすることから、車両購入時にはエコや環境性能のことを考え検討するようしていく。
・経済運転の徹底(急発進・急ブレーキ・高速走行)	○	
・エコドライブの励行	○	
・建設重機の環境に配慮した稼働	○	

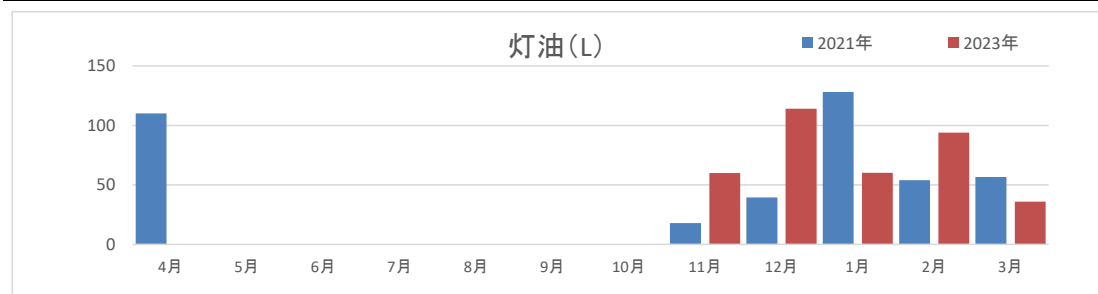


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	1,738	1,190	2,178	1,934	1,744	2,110	2,492	2,490	1,927	2,059	1,970	1,785
2023年	2,020	1,683	2,214	2,094	2,233	2,691	2,223	2,484	2,474	2,016	2,069	2,394



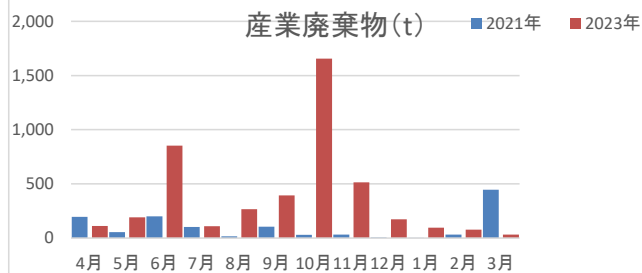
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	2,460	212	230	246	5,033	1,792	325	725	1,326	463	640	265
2023年	1,746	2,819	2,975	2,605	3,343	4,144	4,143	8,035	9,739	7,016	2,893	3,578

灯油使用量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	冬季においては、降雪量が少なかったこともあり灯油の使用量は目標数値を下回る結果となりました。電気Co2排出量などが増えていることから、事務所(建設棟)が増えたことで、灯油よりもエアコンの使用が増加したので、灯油の使用量は減少したと思います。
・ストーブの温度管理(冬季20℃±1℃)	○	
・重ね着	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	110	0	0	0	0	0	0	18	40	128	54	57
2023年	0	0	0	0	0	0	0	60	114	60	94	36

産業廃棄物のリサイクル率向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	工事の受注や工種などで産業廃棄物の排出量は大きく変わるが、リサイクル意識を高め周知することで、目標数値に近づけるようにしたい。
・廃棄物を分別し、リユース・リサイクルを徹底する。	○	
・リサイクル認定会社への搬入	○	
・啓発ステッカーで周知	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	197	56	201	102	16	104	30	31	4	1	33	446
2023年	112	191	854	110	266	394	1,656	514	174	97	79	33

事務所利用水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・水道水のコックは開けすぎないようにする	○	水使用量は親会社であるオオヤマホールディングのに同居しており同社が一括処理しており自社分の把握は困難で目標は設定せずに削減に努力する。
・融雪での使用は抑制	○	

環境に配慮した施工(全工事)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・低騒音・低振動型重機の使用	○	全ての工事で環境配慮建設機械を使用した。又、濁水発生や油流出事故もなかった。
・排ガス規制適合車の使用	○	
・環境配慮施工の維持	○	
・濁水発生防止	○	
・油漏洩防止	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出
自動車リサイクル法	廃自動車のリサイクル券
家電リサイクル法	家電リサイクル券
大気汚染防止法	対象特定工事の届出、規制値の遵守、特定粉じん作業
建設リサイクル法	特定建設資材の分別解体等による再資源化
資源有効利用促進法	対象物品のリサイクル
騒音規制法	対象特定建設作業の届出、対象特定施設の届出、規制値の遵守
振動規制法	対象特定建設作業の届出、対象特定施設の届出、規制値の遵守
水質汚濁法	事故時の報告
フロン排出抑制法	第1種特定製品の定期点検、簡易点検
地域ごみ出しルール	一般廃棄物の分別、収集、排出

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定:1	
■実施日： 2023年7月7日	■実施場所 本社
■参加者： 従業員全員	
■実施内容： ☐ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 ☐ 油類流出防止訓練 避難訓練	
■評価： 手順通り避難出来ることが確認できた。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
 	

二酸化炭素排出量については、電力で基準年度比増加。その要因として本社1棟での運用から、人員増や今後の運用を考慮して、建設棟を改装し、2棟での運用となったことより増加したものと判断します。現場事務所はもちろん本社棟等で、こまめな電気消灯などにも取組んでいる。燃料については、エコを重視とした車両購入やアイドリングストップ・エコドライブの励行などの呼びかけにより使用量削減に向け注力している。また降雪量が少なかったため、除雪活動の減少で夜中の準備・待機をせずに済んだことで灯油削減につながった。淡海エコフォスタは計画通り実施し、今後も継続して環境活動を意識して続けていく。ただ、事業活動において負荷が大きく変わっているので環境経営目標・環境経営計画の見直しを実施すること。

環境に配慮した工法は社会全体の要求事項と認識し、発注者に対して施工知識・技術・適正な機械などを提案し、システムの取り組みをアピール出来るように、引き続き努力する必要がある。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介

環境活動実施状況



月に一度 エコフォスタ清掃